

『ゲオーポニカ』 翻訳と注釈 (1)

伊 藤 正

(2007年10月23日 受理)

Translation, ΓΕΩΠΟΝΙΚΑ

Ito Tadashi

スコラフィコス

学 者 カツシアノス=バツソスの『農業に関する選集』

賛 辞

1. 一方において、他の多くの立派な皇帝たちにとってその大都市¹は誇りであったし、それが彼らの善行と徳を莫大な額の蓄財と同じように膨張させた。他方において、あなたよりも優れたものを持つことは決して認められないであろう。あなたの帝権より大いなる徳行は示されるはずがなかろう。2. というのは、あなたは他の皇帝たちの懸命の努力を些細なものに見なして、唯一かの人とのみ張り合った、すなわち、キリスト者の最初の皇帝、コンスタンティノス²、いわば、この都市の建設者であり守護者と、そして彼を大差であなたは凌いだ、数々の優れた業績や数々の戦勝記念碑や数々の勝利やその他数々の武勲の点で。3. 事実、あるいは臣民に善行を施しあるいは敵を追い払いつつあなたが成し遂げた数々の事績を詳細に語ることは長大になるであろうし、多くの時間と最多の言葉を必要とするであろう。しかし、あなたは生活に役立つことに、またのちの世に生まれてくるすべての人々にとって有益なことにも取り組んでいる。4. まず一方でというのもあなたはすでに気づかれることなく忘却の深みに沈んでしまっていた愛知と弁論術を巧みにかつ賢明に引き出した、あなたの強き力をそれらに与えることによって。5. 次に他方でまたあなたはすべての別の知識と技術を新たによみがえらせた。6. 最後にあなたは国制がこれら三つに、すなわち軍事と宗教と農業に分けられていることを知って、農業の分野に関しても決して配慮を怠らなかった、この分野はとりわけ人間の生活に安定をもたらすことが知られている。7. それゆえあなたはすべての知識と経験を有する古代の様々な人々によって考案されたものを、農業と樹木の世話に関して、各々にふさわしい時期と方法と場所に関して、更にまた井戸掘りと建物の建造に関して、そしてどの場所にそれらを作るのがふさわしいか、また天空のどの方角に向いているものを、またどのように (作るのがふさわしいか)、そしてまた別の多大なものを、あなたの優れた天性の力と偉大な精神

¹ コンスタンティノープル (コンスタンティノポリス、現在のイスタンブール) のこと。

² Constantinus I. ローマの皇帝 (306-337)。313年「ミラノ勅令」を布告してキリスト教を公認した。330年コンスタンティノープルに遷都。

によって一つに集めて、あなたは公の有益な仕事をすべての人々のために企てた。8. というのもあなたのこれらの集成に偶然出会った人は、自分の生活様式にふさわしいものを正確にすぐに見出すであろう、また人間の生活がそれらより成り立っている必要かつ欠くべからざるものを。また集成を、彼はあらゆる努力をはらって、適切にかつきちんと観察するであろう。9. 欠くべからざるものばかりでなく、残余のものそれ自体も、また視覚や聴覚の喜びにのみ関わるものをも、彼は観察するであろう。10. というのもあなたは美しいものを愛する人であって、むしろ真実を語るべきであるとすれば、人間を愛する人であって、あらゆる方法やあらゆる努力によって有益なことどもを一つに集めている、臣民に役立つであろうことを予見して。11. しかるに最も正しき皇帝コンスタンティノス³よ、紫の喜ばしき花、幸あれ、また神の栄光あらんことを、そしてあなたは敵を常に支配するであろう、あなたの権力下にある我々に常に最良のことを配慮しつつ。

第1巻

第1巻の要旨

農業および樹木の世話や麦畑やその他多くの有用なことについて古代の様々な人々によって語られていることを一つに集約して、私はこの書物を編纂した。それはブローレンティノス、およびウーインダニオーニオス、およびタランティノス、およびアナトリオス、およびペーリュティオス、およびディオパネース、およびレオンティオス、およびデーモクリトスの書物、およびアブリカノスの逆説、およびパンピロス、およびアプーレイオス、およびパローン、およびゾーロアストゥレース、およびプロントーン、およびパクサモス、およびダモゲローン、およびディデュモスおよびソーティオーン、およびキュンティリオイの書物から集められている。順番において最初に来るもの、農業愛好者があらかじめ知っておくことがまさに適切であるところのものを全作品の冒頭におくことを、私は当然かつ適切であると見なした。したがって私はこの第1巻に穏やかな天気と荒れた天気の予知に関わる、また夜空の星の出没に関わる、また大地を取り巻く大気から捉えられる結果に関することどもを書き記した。

第1章 一年およびその至の区分について ブローレンティノスの	てくるかの予知 ディデュモスの
第2章 晴天の予知 アラトスの	第6章 月に基づく暦について ディオパネースの
第3章 荒天の予知、またどんな兆候から 雨を予想すべきか 同著者の	第7章 知っていることが不可欠であること、いつ月が大地の上でありまたいつ大地の下にあるかを
第4章 長い冬の予知 同著者の	
第5章 季節が早くやってくるか遅くやっ	

³ Konstantinos VII Porphyrogenitos. ビザンツ帝国マケドニア朝の代表的な人文皇帝 (913-959)。「ポルピュロゲニトス」とは「(皇太子用の) 紫の間の生れ」の意。

第8章 天狼星の出とそこから生じること の予知について	第12章 ゼウスの12年のサイクル、および ゼウスが成し遂げる限りのもの、 黄道帯の12の家をめぐる ゴー ロアストゥレースの
第9章 目に見える星の出没 キュンティ リオイの	第13章 太陽と月について プトレマイオ スの
第10章 最初の雷鳴からなされるべきこと のしるし、毎年、犬の出のあとに ゾーロアストゥレースの	第14章 霰について
第11章 風の呼び名について、またいくつ あるか、また各々はどこから吹く のか ディオニュシオスの	第15章 霰について その他 第16章 雷について

第2巻

第2巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集^{エクロガイ}』の2巻に含まれる、畑に託されている限りのもの、様々な作物、私が言っているのは小麦と大麦、およびその他のいわゆる小低木類に属する作物について、以下の各章に。まずより一般的なものを最初に置くのが妥当である。

第1章 主人が居ることが仕事に大いに役 立つということ	雨水を集めなければならないか ディオパネースの
第2章 とりわけ奴隷は農事に向いている ということ、また仕事の性質に応 じて労働者の身体を気遣うこと、 また各々の仕事に監督者を任命す ることは当然であるということ パローンの	第8章 広大な土地には茂みの山がなけれ ばならないということ、またどの ように植えられうるか アプーレ ーイオスの
第3章 どんな場所にまた傾斜のところ に住居は作られるべきか、またどの 星の方角に向かって、また浴場 について ディデュモスの	第9章 どんな土地がより良いか ペーリ ュティオスの
第4章 井戸掘りに関すること パクサモ スの	第10章 土地の検査について アナトリオ スの
第5章 井戸掘りについて その他	第11章 土地の検査について その他 デ ィオパネースの
第6章 同伴に関して デーモクリトスの	第12章 どんな種子を肥沃な土地に、中位 の土地にはどんな、痩せた土地に はどんな種子を蒔くべきか タラ ンティノスの
第7章 水について、またどのようにして	

第13章 土地が湿っているときどんな種子を、乾いているときはどんな種子を蒔くべきか レオンティオスの

第14章 小麦と大麦の播種の時期について ディデュモスの

第15章 蒔かれている種子のどれが実り豊かになるかを知るための予兆 ゴーロアストゥレースの

第16章 種子の選別について、蒔かれるべきはどの種子か、またどの時期にウーインダニオーニオスの

第17章 反対側から反対側に種子を蒔かねばならぬということ ディデュモスの

第18章 将来に向けて種子が蒔かれるように、下手なやり方のゆえに播種後害を被らないように アプリカノスの

第19章 何をなし何をなさぬべきか、種子をよく実らせるには ソーティオーンの

第20章 どのようにして理解すべきか、種子がしかるべき釣合いが取れているかどうかを パンピロスの

第21章 下肥について キュンティリオイの

第22章 下肥の準備 ブローレンティノスの

第23章 どの時期に各々の土地を開墾すべきか パローンの

第24章 播種後の除草について レオンティオスの

第25章 いつ収穫をすべきか ブローレンティノスの

第26章 脱穀場の準備について ディデュモスの

第27章 小麦を貯蔵するための場所あるいは穀倉、および穀物の管理について タランティノスの

第28章 納屋に貯蔵してある種子が成長するように アプリカノスの

第29章 アリが種子の堆積を襲うことのないように ソーティオーンの

第30章 大麦の管理について、できるだけ長時間、納屋の中で大麦が健康であることを監視するように ダモゲロンの

第31章 小麦粉の管理について 同著者の

第32章 小麦の検査について、またパンをどのようにして検査すべきか ブローレンティノスの

第33章 酵母なしにパンを甘くするにはどうするか ディデュモスの

第34章 麦湯について ディデュモスの

第35章 豆について 同著者の

第36章 エジプト豆について ブローレンティノスの

第37章 レンズ豆のスープについて 同著者の

第38章 キビについて 同著者の

第39章 シロバナルピナスについて 同著者の

第40章 すべての豆類、および大麻および亜麻について キュンティリオイの

第41章 蒔かれた豆が将来たやすく煮られるように デーモクリトスの

第42章 ライオンの飼料について、それを人はオロバンケとも呼ぶ ソーティオーンの

第43章 どんな種子がどんな飼料によって害されるか パクサモスの

第44章 畑の監督者、あるいは管理人について ブローレンティノスの

第45章 監督者が仕事の日誌を持たねばならぬということ、また彼が労働者の配置をどのようになすのがふさわしいか 同著者の

第46章 仕事量について 同著者の

第47章 農夫の健康について ブローレンティノスの

第48章 農夫を、また植物をより良い場所から劣った場所へ移すことはふさわしいことではないということ ディデュモスの

第49章 鍛冶屋や大工、および陶工を、田舎に持つべきであるということ、あるいは近くに パローンの

第3巻

第3巻の要旨

各月に適する農事がこの巻、つまり『農業に関する選集』の3巻に含まれる。

第1章	日誌、および毎月どんな仕事をなすべきか パローンとキュンティリオイから 1月に	第8章	スペルト作り
第2章	2月に	第9章	脱穀大麦作り
第3章	3月に	第10章	7月に
第4章	4月に	第11章	8月に
第5章	5月に	第12章	9月に
第6章	6月に	第13章	10月に
第7章	小麦のグロート作り	第14章	11月に
		第15章	12月に

第4巻

第4巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の4巻に含まれる。ぶどうの木の植え付けと栽培について、またその植え替えについて、ギンバイカの、またいわゆる毒消しのぶどうの房について、また様々な接木について、また同じぶどうの房が異なる実をもつことがどのようにして起こるのか、またぶどうの房の長持ちについて、また他の多くの有益なことを。

第1章	ぶどうの木について	ブローレンティノスの	酒について	パクサモスの	
第2章	ぶどうの木について	その他	アブリカノスの	第10章	スズメバチがぶどうの木、あるいはぶどうの房、あるいはその他の果実を襲うことがないように
第3章	根をもつぶどうの木はどのようにして容易にすばやく植え替えられるか	ディデュモスの	第11章	ぶどうが実る春までぶどうの木に房をどのようにしてもちこたえさせるか	ペーリュティオスの
第4章	ギンバイカのぶどう ^{スタビユレー} について	タランティノスの	第12章	ぶどうの木の接木について	ブローレンティノスの
第5章	早生のぶどうについて	同著者の	第13章	穴あけ法の接木について	ディデュモスの
第6章	遅生のぶどうについて	同著者の	第14章	同じぶどうの房が異なる実、つまり粒をもつように、一方は白い、他方は黒あるいは赤い実を	同著者の
第7章	種無しぶどうについて	デーモクリトスの	第15章	ぶどうの保存について	
第8章	ぶどうの木の解毒と浄化について	ブローレンティノスの			
第9章	甘い香りのぶどうでできたぶどう				

第5巻

第5巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の5巻に含まれる。ぶどうの木の植え付けと栽培に関する心得、またそれをいつ収穫すべきか、またそれを害する動物の予防について、またぶどうの花の、また干しぶどうの作り方について、また茎の植え付けについて。

第1章	ぶどうの木に適した土地について	ブローレンティノスの	第5章	海沿いのまた川沿いの土地について	同著者の
第2章	どの土地にぶどうの木のどの種類が植えられるべきか、またぶどうの木にとってどの位置 ^{チニス} がふさわしいか	同著者の	第6章	ぶどうの木の植樹の時期について	カッシアノスの
第3章	苗床について	ディデュモスの	第7章	植樹されるであろう土地がどのようなぶどう酒を生み出すかを予知しなければならぬこと	ディオパネースの
第4章	土地の高低について	デーモクリトスの			

第8章	植え付けられる ^{クレマタ} 小枝はどれであるべきか、またぶどうの木のどの部分か、若いぶどうの木のものか、老木の小枝を植樹すべきか	キュンティリオイの	第18章	取木の小枝をどのように植えるべきか	アナトリオスの
第9章	ぶどうの木をどのように植えるべきか、またぶどうの木を早く根付かせるために何をなすべきか、また小枝はまっすぐに植樹さるべきか斜めに植樹さるべきか	ブローレンティノスの	第19章	栽培方法について	ソーティオーンの
第10章	月の何日目に、またぶどうの木を植えるべきは月が地上にあるときか地下にあるときか	アナトリオスの	第20章	ぶどうの木の根の周りを掘ることについて	同著者の
第11章	ぶどう畑で何が播種可能か	ペーリュティオスの	第21章	ぶどうの木の世話について	ダモゲロンの
第12章	ぶどうの木の植樹の深さについて	ブローレンティノスの	第22章	何本くらしいの小枝を4年生のぶどうの木のために残しておくべきか、またどんな支柱に結び付けるべきか	同著者の
第13章	穴に植えるにふさわしいのは二本の小枝かただ一本の小枝か	同著者の	第23章	剪定について	パンピロスの
第14章	根をもつ樹木と小枝からのそれとの違いについて	ディデュモスの	第24章	ぶどうの木の豊穡とぶどう酒のよさについて	アブリカノスの
第15章	ぶどうの木の混合せる種類を植えるべきではないということ、またとくに黒いぶどうの房と白い房とを一緒に	ブロントーンの	第25章	成熟したぶどうの木をいつ掘り返すべきか、また掘り返しの利点は何か	アナトリオスの
第16章	一種類のぶどうの木ではなく異なる種類を別々に植えるのが有益であるということ	ソーティオーンの	第26章	ぶどうの木の根の周りを掘る時期にどのように下肥を施すべきか	同著者の
第17章	ぶどうの木の種類の違いについて	ブローレンティノスの	第27章	柵をめぐらすことについて	ディデュモスの
			第28章	若芽の剪定について	ソーティオーンの
			第29章	2度目の若芽の剪定について	パクサモスの
			第30章	ぶどうの木にシラミやイモムシがたかることのないように、霜によって害されることがないように	アブリカノスの
			第31章	霜あるいは赤錆病によってぶどうの木々が害されることがないように	ディオパネースの

第32章	更に霜について	ぶどうの房の熟したことのしるし
第33章	赤錆病について ベーリュティオスの	は何か 同著者の
第34章	実を枯らしているぶどうの木々の世話 ウーインダニオーニオスの	第46章 どの家に月があるときに収穫をすべきか、月が欠けて地下にあるときに収穫をなすべきである ゴーロアストゥレースの
第35章	稔りのないぶどうの木々について デーモクリトスの	第47章 未熟なぶどうの房をどのようにして、あるいは他方で損なわれたぶどうの房をどのようにして直すべきか、またそれらから生じるであろうぶどう酒をどのように育成すべきか レオンティオスの
第36章	日焼けしたぶどうの木々について カッシアノスの	第48章 ぶどうの木々を傷つける動物の世話 アプリカノスの
第37章	病んでいるぶどうの木々について ダモゲローンの	第49章 甲虫および実を傷つけるより大きな動物について 同著者の
第38章	樹液を出すぶどうの木々について ソーティオーンの	第50章 ぶどうの木々も樹木も作物も他の何ものもあるものによって、またとりわけより大きな動物によって害されることはないということについての、豊富な経験に基づくデーモクリトスの自然界の逆説 デーモクリトスの
第39章	実を落とすぶどうの木々について 同著者の	第51章 ぶどうの若芽について ブローレンティノスの
第40章	木に這うぶどうの木々について 同著者の	第52章 干しぶどうの造り方について 同著者の
第41章	実を腐敗させているぶどうの木々について バローンの	第53章 茎植えについて
第42章	二又のつるはしによって傷つけられたぶどうの木々について 同著者の	
第43章	ありうべきぶどう酒の豊作やぶどう酒の質の良さあるいは質の悪さを収穫前にあらかじめ知ることはどのようにして可能か デーモクリトスの	
第44章	垣の作り方 ディオパネースの	
第45章	いつぶどうを収穫すべきか、また	

第6巻

第6巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の6巻に含まれる。桶と槽、およびオリブ搾り機、およびぶどう酒貯蔵庫の準備、甕ヒトスの置き場と製作と松脂塗り、また収穫に向けての準備、

ぶどうの房をどのように踏むべきか、また甕にぶどうの汁をどのように流し入れるか、また汁が溢れることがないように、また丸一年汁をもつことは、また水があるかどうかを知ること、またすっぱい臭の汁を直すことはどのようにして可能なのか、また石膏塗りについて。

第1章	桶および槽およびぶどう搾り機について ブローレンティノスの	オスの
第2章	ぶどう酒の貯蔵と甕の置き場について 同著者の	第12章 ぶどうの房の最後の踏み込みのあと、甘い新しいぶどう酒は甕の中にどのように注がれるべきか ディオパネースの
第3章	甕の準備について アナトリオスの	第13章 ぶどう汁の流し入れのあと、大桶から直ちにぶどうの種を取り出したあと、いわゆるタムナはぶどう汁からどのようにして作られるか アナトリオスの
第4章	ピッチ塗りの時期と方法 同著者の	第14章 ぶどう汁が溢れ出ないように ブローレンティノスの
第5章	ピッチ検査 ディデュモスの	第15章 ぶどう汁を直ちに使用に適したものにすること 同著者の
第6章	ピッチの調合 同著者の	第16章 ぶどう汁を丸一年保つこと、また水があるかどうかを知ること 同著者の
第7章	ピッチ塗りについての一般的な指示 ブローレンティノスの	第17章 ぶどう汁が水を含んでいるかどうかを知ること ソーティオーンの
第8章	甕のピッチ塗りの信頼できる別の方法 同著者の	第18章 石膏塗りについて ディデュモスの
第9章	甕のピッチ塗りのための準備について バローンの	第19章 酢のような臭いがするぶどう汁を直すこと デーモクリトスの
第10章	ぶどう収穫に向けての準備について ディデュモスの	
第11章	監督者は駄獣用ロバに何をすべきか、またぶどうの房はどのように踏まれるべきか、大桶の中に踏むために並んでいる人々はどのように歩き廻るべきか アブーレイ	

第7巻

第7巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の7巻に含まれる。ぶどう酒の違いについての心得、またぶどう酒の育成、および試飲、および注ぎ方、またある別の有用なことについて。

第1章 果実の相違について キュンテ
リオイの

第2章 屋外の場所はどのぶどう酒に向
いているか、また屋内の場所はどの
ぶどう酒に 同著者の

第3章 新旧および白と黒のぶどうで造ら
れたものとの違いについて ディ
オパネースの

第4章 木になっているときに長い間雨に
打たれたぶどうの房の、また収穫
後同様に雨に打たれたぶどうの房
のぶどう酒をどのように育成し、
しっかりしたものとなすか デー
モクリトスの

第5章 甕開きについて、また甕開きのと
きに何を配慮すべきか ゴーロア
ストゥレースの

第6章 ぶどう酒の移し替えについて、ま
たぶどう酒をいつ移し替えるべき
か、また同じ甕に入れられたぶど
う酒が違いをもつということ 同
著者の

第7章 ぶどう酒の試飲の時期と方法につ
いて プローレンティノスの

第8章 ぶどう酒およびぶどう汁の水分が
あるかどうかの検査 デーモクリ
トスの

第9章 ぶどう酒を水と分けること アプ
リカノスの

第10章 どれくらいの期間でぶどう酒は変
質するものなのか パクサモスの

第11章 雷や電光によってぶどう酒が変質
しないように ゴーロアストゥレ
ースの

第12章 ぶどう酒を変質させず、変わらな
いままにするには、どのように予
防するか プロントーンの

第13章 ぶどう酒を変質させない賞賛すべ
き調味、いわゆるパナケイア ダ
モゲローンの

第14章 ぶどう酒を決して変質させないた
めの不滅の言葉 アプリカノスの

第15章 変質したぶどう酒と変質していな
いぶどう酒の兆候と予知 ソーテ
ィオーンの

第16章 ぶどう酒が最初からすっぱくなる
のをどのようにして直すか タラ
ンティノスの

第17章 海を越えて運ばれたぶどう酒は変
質しないということ ディオパネ
ースの

第18章 ぶどうから将来造られるぶどう酒
を甘くするために、われわれはぶ
どうをどのように管理すべきか
ディデュモスの

第19章 ぶどう汁からわれわれは甘いぶど
う酒をどのようにして造るか 同
著者の

第20章 よい香りの甘いぶどう酒を造るこ
と パンピロスの

第21章 白ぶどう酒を黒に、黒ぶどう酒を
白にすること バローンの

第22章 澄んだぶどう酒を造ること プロ
ントーンの

第23章 水割り用の強いぶどう酒を造るこ
と、わずかな消費で多くの人が満
足するように パクサモスの

第24章 新しいぶどう酒を古めかしく見せ
ること ダモゲローンの

第25章 ぶどう酒が浮き粕をもつことがな
いように ソーティオーンの

第26章 ぶどう酒の水気をとること アブ
レーイオスの

第27章 動物の毒によって損なわれたぶど
う酒を直すこと デーモクリトス
の

第28章 ^{おり} 濁のある濁ったぶどう酒を元に戻
すこと アナトリオスの

第29章 ぶどう酒が濁ること アプリカノ
スの

第30章 ぶどう酒を飲んだ人が臭わないよ
うに 同著者の

第31章 ぶどう酒をたくさん飲んだ人が酔

わないように 同著者の

第32章 人はどのようにして酒を断つのか
デーモクリトスの

第33章 酔っている人の酔いを醒ますこと
について ベーリュティオスの

第34章 ぶどう酒のみではなく、別の何か
が飲んだ人を酔わせるということ
レオンティオスの

第35章 ぶどう酒はぶどうなしにどのよう
にして造られるか ソーティオー
ンの

第36章 高齢に至るまで健康を保つぶどう
酒の確かな調理法 ウーインダニ
オーニオスの

第37章 濾されたぶどう酒について

第8巻

第8巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の8巻に含まれる。様々なぶどう酒の、またその他の食前酒の造り方、および酢のあらゆる種類の造り方。

第1章 健康によいぶどう酒の造り方

第2章 パラのぶどう酒

第3章 イノンドのぶどう酒

第4章 アニスのぶどう酒

第5章 西洋梨のぶどう酒

第6章 ハシバミのぶどう酒

第7章 メグサハッカのぶどう酒

第8章 月桂樹のぶどう酒

第9章 ウイキョウのぶどう酒

第10章 オグルマのぶどう酒

第11章 未熟なぶどうのぶどう酒

第12章 パセリのぶどう酒

第13章 ヘンルーダのぶどう酒

第14章 コロハのぶどう酒

第15章 ヒソップのぶどう酒

第16章 セロリのぶどう酒

第17章 りんごで造ったぶどう酒

第18章 純粋なぶどう酒の調理

第19章 何らかの病に陥らせることなく女
性の乳の出をよくするぶどう酒

第20章 下痢や腹からの流出を防ぐぶどう
酒

第21章 ニガヨモギのぶどう酒について

第22章	アミナイ オスぶどう酒の造り方 ディデュモスの	どう酒を酢にするにはどうすれば よいか バローンの
第23章	タソスぶどう酒の造り方 ブロー レンティノスの	第34章 ぶどう酒なしで造られる酢 同著 者の
第24章	コスぶどう酒の造り方 ベーリュ ティオスの	第35章 消化を促進し、健康を増強する酢 ソーティオーンの
第25章	蜂蜜ぶどう酒について	第36章 甘酢の造り方 同著者の
第26章	ぶどう汁から造る蜂蜜ぶどう酒	第37章 辛口の酢の造り方 同著者の
第27章	水とメーロメリを混ぜた飲み物の 造り方	第38章 酢がすっぱさを保つように アブ レーイオスの
第28章	蜂蜜水の造り方	第39章 胡椒風味の酢の造り方 同著者の
第29章	ロドメリの造り方	第40章 酢が水を含んでいるかどうかの検 査 (同著者の)
第30章	セロリ風味のぶどう酒の造り方	第41章 どのようにして2倍の量の酢を造る か デーモクリトスの
第31章	スパイスの効いたぶどう酒の造り 方 デーモクリトスの	第42章 海葱の酢の造り方 ピュタゴラス の
第32章	最上のヘブセーマの造り方 レオ ンティオスの	
第33章	異なる種類の酢の造り方、またぶ	

第9巻

第9巻の要約

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の9巻に含まれる。オリーブの栽培と世話、また未成熟なオリーブから作られる油の製法、またオリーブ油に関するすべてのその他の配慮と世話、およびオリーブの様々なブリザーブに関する全心得。

第1章	オリーブについて	べきか 同著者の
第2章	オリーブの植樹と世話について、 またそれらに関する配慮が最大の 利益であるということ ブローレ ンティノスの	第5章 苗床について ディデュモスの
第3章	オリーブに適した空気、および土 地の状態について 同著者の	第6章 オリーブ植樹用の穴について 同 著者の
第4章	オリーブの植樹の時期について、 またどのような土地に植えられる	第7章 植えられるべきオリーブの樹木は どんな種類か 同著者の
		第8章 多産のオリーブを作ること アブ リカノスの

第9章	十分に成長したオリーブの世話に ついて ソーティオーンの	第21章 純粋なオリーブ油を作るにはどう するか タランティノスの
第10章	実り豊かなオリーブをどのように して作るか、また病にかかっている オリーブをどのようにして直す か キュンティリオイの	第22章 悪臭を放つオリーブ油の直し方 同著者の
第11章	多様な方法でオリーブの栽培がな されるということ レオンティオ スの	第23章 悪臭がするオリーブ油の直し方 同著者の
第12章	オリーブの収穫が低下することの ないようにするために デーモク リトスの	第24章 濁ったオリーブ油を元通りにする こと 同著者の
第13章	オリーブの剪定について バロー ンの	第25章 ネズミあるいは他の動物がオリ ーブ油の中に落ちてもしも匂いを損 なうならば デーモクリトスの
第14章	オリーブの木に接木されたぶどう の木について アプリカノスの	第26章 スパノンに似たオリーブ油をど のようにして作るか ダモゲローン の
第15章	オリーブの樹木に適した下肥につ いて ディデュモスの	第27章 イストリコンに似たオリーブ油の 作り方 ソーティオーンの
第16章	オリーブの木の接木について ブ ローレンティノスの	第28章 オリーブの中で最上のブリザーブ ブローレンティノスの
第17章	いつどのようにしてオリーブの樹 木を選定し収穫すべきか パクサ モスの	第29章 酢と蜂蜜の混ぜ物で作られたブリ ザーブ 同著者の
第18章	オリーブの木なしにどのようにし てオリーブ油ができるか ダモゲ ローンの	第30章 ぶどう汁で作られたブリザーブ 同著者の
第19章	未熟なオリーブで作るオリーブ油 の作り方 アブレーイオスの	第31章 ぶどうの搾りかすで作られたオリ ーブのブリザーブ ディデュモス の
第20章	よい香りのオリーブ油の調理 デ ィオパネースの	第32章 潰されたオリーブについて 同著 者の
		第33章 オリーブのピクルスについて 同著者の

第10巻

第10巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の10巻に含まれる。造園、またそれより生

じる喜びと楽しさに関する心得、樹木の各々をいつ植えるべきか、また樹木のうちどれが接木可能か、接木の結果より優良になるのはどれか。

- 第1章 庭について ブローレンティノスの
 第2章 どの時期にまたいつ樹木を植えるべきか 同著者の
 第3章 樹木のうちの何を種から植えるべきか、また何を新芽から、また何を切り枝から、またどれを若枝から ディデュモスの
 第4章 ナツメヤシの植樹について レオンティオスの
 第5章 ナツメヤシの実が豊かに実ることについて デーモクリトスの
 第6章 ナツメヤシの若枝の植樹について ディデュモスの
 第7章 シトロンの植樹の時期と世話について、またそれらが赤くなるのはどうしてか ブローレンティノスの
 第8章 シトロンの植樹について その他 アナトリオスの
 第9章 鳥の姿をした、あるいは人の顔を、あるいは他の動物の顔を真似たシトロンをどのようにして作るか アプリカノスの
 第10章 シトロンの保存と貯蔵について ソーティオンの
 第11章 ピスタチオの植樹について ディオパネースの
 第12章 ピスタチオの植樹について その他 ダモゲローンの
 第13章 桃の植樹と世話について ブローレンティノスの
 第14章 カタクラプトス 銘入りの (ストライプの入った) 桃を作る デーモクリトスの
 第15章 赤い桃を作る 同著者の
 第16章 種なし桃を作る アプリカノスの
 第17章 桃の接木について ディデュモスの
 第18章 りんごの植樹の時期とすべての世話について アナトリオスの
 第19章 赤いりんごを作る ベーリュティオスの
 第20章 りんごの接木について ディオパネースの
 第21章 りんごの保存 (持ちのよさ) について アプーレイオスの
 第22章 小さな西洋梨の植樹と世話について、またそれが石を一切もつことのないように キュンティリオイの
 第23章 小さな西洋梨の植樹について その他 ディオパネースの
 第24章 小さな西洋梨の接木について タランティノスの
 第25章 小さな西洋梨の保存について デーモクリトスの
 第26章 マルメロの植樹について ディデュモスの
 第27章 マルメロを何かに似せて作ること デーモクリトスの
 第28章 マルメロの保存について 同著者の

- 第29章 小さなザクロの植樹と栽培およびあらゆる世話について ブローレンティノスの
 第30章 ザクロが口を大きく開けないように アプリカノスの
 第31章 種なしザクロを作る 同著者の
 第32章 ザクロの若枝が野獣を追い払うということ 同著者の
 第33章 ザクロがより赤くなるように ディデュモスの
 第34章 酸っぱいザクロをどのようにして甘くするか パクサモスの
 第35章 ザクロがたくさんの実を結ぶこと デーモクリトスの
 第36章 木からザクロを挽ぐ時はどれほどの粒があるかを言えるように アプリカノスの
 第37章 ザクロの接木について ブローレンティノスの
 第38章 小さなザクロの保存および貯蔵および監視について ベーリュティオスの
 第39章 プラムの植樹について パンピロスの
 第40章 プラムの保存について 同著者の
 第41章 サ克蘭ボの植樹について ブローレンティノスの
 第42章 サ克蘭ボの保存について 同著者の
 第43章 ナツメの植樹について ウーインダニオーニオスの
 第44章 ナツメの保存について 同著者の
 第45章 イチジクの植樹の時期と世話について ディデュモスの
 第46章 植樹されたイチジクを^{うじむし} 蛆虫から救うように 同著者の
 第47章 ストライプの入ったイチジクを作る デーモクリトスの
 第48章 イチジクが実を落とすことのないように 同著者の
 第49章 野生のイチジクを栽培すること アプリカノスの
 第50章 赤カビ病にかかったイチジクについて レオンティオスの
 第51章 通じに効くイチジク、および早生のイチジクを作るように デーモクリトスの
 第52章 イチジクの接木について レオンティオスの
 第53章 ある部分からイチジクの実が白くなり、他の部分から黒あるいは赤くなるように アプリカノスの
 第54章 干しイチジク、いわゆるイスカデスが新鮮なままに維持されるように パクサモスの
 第55章 オリュントイ、すなわち未熟なイチジクについて アプリカノスの
 第56章 緑のイチジクをどのようにしてフレッシュに保つことができるか、あたかも木々におけるが如く 同著者の
 第57章 アーモンドの植樹の時期、および世話および接木について ブローレンティノスの
 第58章 アーモンドをいつ収穫すべきか 同著者の
 第59章 小さなアーモンドを甘くすること アプリカノスの

- 第60章 ストライブの入ったアーモンドを作る デーモクリトスの
- 第61章 実らないアーモンドを実るようにすること 同著者の
- 第62章 アーモンドの接木について パクサモスの
- 第63章 栗の植樹の時期について ダモゲローンの
- 第64章 ナッツの植樹の時期と世話について 同著者の
- 第65章 ナッツの接木について 同著者の
- 第66章 外皮なしの裸のナッツを実らせること アプリカノスの
- 第67章 ナッツあるいは他のどんな木であれ乾燥させるように デーモクリトスの
- 第68章 ポンティコンと呼ばれる薄い殻をもつナッツについて ディデュモスの
- 第69章 桑の実について、また実をどのようにして白くするか ベーリュティオスの
- 第70章 桑の実の保存と貯蔵について 同著者の
- 第71章 セイヨウカリンの植樹について ディデュモスの
- 第72章 イナゴ豆の植樹について アナトリオスの
- 第73章 果実および堅い殻をもつ果実の明確な名称の説明について デーモクリトスの
- 第74章 果実および堅い殻をもつ果実の違いについて 同著者の

- 第75章 果樹の接木の時期と方法について ブローレンティノスの
- 第76章 接木と腹接ぎについて、また木々のどれがどの果樹の接木と腹接ぎに適するか ディオパネースの
- 第77章 芽接ぎの時期と方法について ディデュモスの
- 第78章 樹木をいつ剪定すべきか レオンティオスの
- 第79章 天候で被害を被った木々の対策 デーモクリトスの
- 第80章 鳥が樹木にやって来ないように 同著者の
- 第81章 植樹された木々の世話について パローンの
- 第82章 すべての樹木がよりたくさんの実を結ぶように アプリカノスの
- 第83章 実りのない樹木が実を結ぶ ゴーロアストゥレースの
- 第84章 各々の被害を癒す木々の世話 パクサモスの
- 第85章 大きくかつ実りある木々を移植するにはどうするか アナトリオスの
- 第86章 遠方からもたらされた種はどのようにして木になるか パンピロスの
- 第87章 木々が実を落とさないための対策 ソーティオーンの
- 第88章 花を落とし、あるいは葉を散らす木々の世話について キュンティリオイの

- 第89章 家畜や動物によって樹木や種が害を被らないように、デーモクリトスの自然に関する知見 デーモクリトスの

- 第90章 ミミズなどそのような動物によって樹木やぶどうが害を被らないための対策 ブローレンティノスの

第11巻

第11巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の11巻に含まれる。樹木のうち花冠作りに用いられるもの、また落葉しない樹木、バラ、およびユリ、およびニオイスマレ、および良い香りの花々の植え付け。

- 第1章 どれほどのどんな木々が常緑樹か、また冬に決して落葉しない木々は
- 第2章 月桂樹に関する物語 ヒストリア
- 第3章 月桂樹の接木、および播種、および移植について キュインティリオスの
- 第4章 イトスギに関する物語
- 第5章 イトスギの植樹について ディデュモスの
- 第6章 ギンバイカに関する物語
- 第7章 ギンバイカの植樹について ブローレンティノスの
- 第8章 ギンバイカの保存について 同著者の
- 第9章 ツゲについて 同著者の
- 第10章 松に関する物語
- 第11章 松の植樹について
- 第12章 コショウボクについて
- 第13章 柳について
- 第14章 トキワガシについて
- 第15章 ローズマリーに関する物語
- 第16章 ローズマリーの植樹について
- 第17章 バラに関する物語
- 第18章 バラについて、また香りのよりよいものにするには、また絶え間ないものにするにはどうすればよいか ディデュモスの
- 第19章 ユリに関する物語
- 第20章 ユリについて アナトリオスの
- 第21章 アヤメについて レオンティオスの
- 第22章 スミレに関する物語
- 第23章 スミレの植え付けについて タラントス
- 第24章 水仙に関する物語
- 第25章 水仙の植え付けについて ディデュモスの
- 第26章 サフランの植え付けについて ブローレンティノスの
- 第27章 マヨナラ、トウバナ、およびバルサモンについて
- 第28章 ミソドゥーロス、およびメボウキ(バジル)について ソーティオーンの
- 第29章 セイヨウキヅタに関する物語
- 第30章 セイヨウキヅタの植え付けについて

第12巻

第12巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の12巻に含まれる。様々な野菜の播種、各月に植えつけられまた蒔かれるべきかぎりのもの、見事な造園、および野菜の効能。

第1章	各月に何を播きまた何を植樹するかを知る事、コンスタンティノポリスの気候に応じて。	ンの	
第2章	造園について プローレンティノスの	第13章	レタスとその世話について、またそれが白くまたよい形になるにはどうするか プローレンティノスの
第3章	野菜に適する土地 ディデュモスの	第14章	レタスがその中にセロリを作り出すように、またヘスペリス、またメボウキ、またこの種の別のものを、同じ根から。 ディデュモスの
第4章	どんな庭が野菜にふさわしいか 同著者の	第15章	ビートについて、またどのようにしてそれを大きくするか ソーティオンの
第5章	あらゆる種類の野菜を乾地でどのようにして作ることができるか ウーインダニオーニオスの	第16章	さまざまな野菜について、またそれらの世話について バロンの
第6章	庭が実り豊かで花咲き乱れるように デーモクリトスの	第17章	キャベツについて、またその世話について パクサモスの
第7章	野菜がノミに食われることのないように、またシラミや鳥によって害されることのないように アナトリオスの	第18章	アスパラガスについて ディデュモスの
第8章	野菜や木々の中にイモムシが生息しないように アプーレイオスの	第19章	セイヨウカボチャとキュウリについて、またそれらの世話について、またどうすれば双方共にその中に種をもたないようにできるか、また早生に作ることができるか キュンティリオイの
第9章	動物をどのようにして全滅させるか ディオパネースの	第20章	メロンについて プローレンティノスの
第10章	野菜の傍らに蒔いて有益なもの プロントーンの	第21章	カブおよびその種について 同著者の
第11章	庭師に害を与えることに対して アブリカノスの		
第12章	ゼニアオイとそのさまざまな病に対する効能について ダモゲロー		

第22章	ハツカダイコンについて 同著者の	イオスの	
第23章	セロリについて 同著者の	第34章	イノンドについて
第24章	ハッカ草について 同著者の	第35章	タガラシについて ダモゲローンの
第25章	栽培されているまた野生のヘンルーダについて 同著者の	第36章	ムスカリについて アナトリオスの
第26章	ヘスペリスについて 同著者の	第37章	海葱について ベーリュティオスの
第27章	コショウソウについて 同著者の	第38章	スカンポについて アブリカノスの
第28章	チコリあるいはトロークシマについて ディデュモスの	第39章	アーティチョークについて バロンの
第29章	セイヨウネギについて ソーティオンの	第40章	スベリヒユについて パクサモスの
第30章	にんにくについて	第41章	キノコの作り方 タランティノスの
第31章	たまねぎについて		
第32章	カウカリデスについて パウサモスの		
第33章	メグサハッカについて レオンテ		

第13巻

第13巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の13巻に含まれる。イナゴ、およびバッタ、およびサソリ、およびヘビ、およびその種の毒をもつ動物に関する心得。ならびに、ノミ、およびナンキンムシ、および蚊に対する、また他のこのような刺す虫に対する治療法。

第1章	イナゴについて デーモクリトスの	第8章	ヘビについて プローレンティノスの
第2章	バッタについて ディデュモスの	第9章	サソリについて ディオパネースの
第3章	イタチについて アブリカノスの	第10章	アリについて パクサモスの
第4章	家内ネズミについて パクサモスの	第11章	蚊について デーモクリトスの
第5章	野ネズミについて アプーレイオスの	第12章	ハエ対策 ベーリュティオスの
第6章	ネコについて ソーティオンの	第13章	コウモリについて アブリカノスの
第7章	モグラについて パクサモスの		

- | | | | |
|------|--------------------|------|--------------------|
| 第14章 | ナンキンムシについて ディデュモスの | 第16章 | 甲虫について ゴーロアストゥレースの |
| 第15章 | 家の中にいるノミ対策 パンピロスの | 第17章 | ヒル対策 アナトリオスの |
| | | 第18章 | カエルについて アブリカノスの |

第14巻

第14巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の14巻に含まれる。ハト、および鳥類、空飛ぶ鳥と陸に生息する動物の飼育と世話に関する心得。以下の諸章の知識に従って。

- | | | | |
|------|---|------|--|
| 第1章 | ハトについて ブローレンティノスの | | オスの |
| 第2章 | ハトを逃がすのではなくかわいがるように ディデュモスの | 第12章 | 鳥がカタルにかからないように 同著者の |
| 第3章 | ハトは留まるということ、そして他の見知らぬハトと一緒に連れてくるとのこと 同著者の | 第13章 | 鳥が目眩を起こすように ベーリュティオスの |
| 第4章 | ネコがハトをわずらわすことがないように | 第14章 | 鳥が流産しないように パンピロスの |
| 第5章 | ヘビがハト小屋に入らないように デーモクリトスの | 第15章 | 鳥がネコによって傷つけられることがないように アブリカノスの |
| 第6章 | ハト小屋について キュンティリオイの | 第16章 | 雄鶏について ブローレンティノスの |
| 第7章 | 鳥（雌鶏）について ブローレンティノスの | 第17章 | 鳥のさまざまな治療について パクサモスの |
| 第8章 | 親鳥なしにどのようにしてひなを育てることができるか デーモクリトスの | 第18章 | クジャクについて ディデュモスの |
| 第9章 | ひなの飼育について ディデュモスの | 第19章 | キジ、およびヌミディア鳥、およびヤマウズラ、およびシャコについて バローンの |
| 第10章 | ストライプの入った卵を作ること アブリカノスの | 第20章 | ヤマウズラについて ベーリュティオスの |
| 第11章 | 鳥が大きな卵を産むこと、またその卵の監視について レオンティ | 第21章 | ヤマウズラと他の鳥類の狩について アナトリオスの |
| | | 第22章 | ガチョウについて キュンティリオイの |

- | | | | |
|------|---------------------------------------|------|------------------------|
| 第23章 | 水鳥（鴨）について ディデュモスの | 第25章 | ニシコクマルガラスについて レオンティオスの |
| 第24章 | キジバト、およびウズラ、およびツグミ、およびその他の小鳥について 同著者の | 第26章 | ハゲワシについて アリストテレスの |

第15巻

第15巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の15巻に含まれる。自然界における同感と反感、またミツバチの世話、および蜂蜜の製造、およびミツバチあるいはスズメバチに刺されないようにすること、および雄ミツバチの駆除に関して。

- | | | | |
|-----|---|------|--|
| 第1章 | 自然界の相性の良さと悪さについて ゴーロアストゥレースの | 第6章 | 蜂蜜を採取する人が刺されないように パクサモスの |
| 第2章 | ミツバチについて、また「牛の生まれの」と呼ばれているものは牛からどのようにして生ずるのか ブローレンティノスの | 第7章 | 蜂蜜とその世話について ディオパネースの |
| 第3章 | ミツバチについて ディデュモスの | 第8章 | ミツバチの巣箱も、田畑も、家も、家畜小屋も、仕事場も魔術によって左右されることがないように レオンティオスの |
| 第4章 | ミツバチを逃がさぬように 同著者の | 第9章 | 雄ミツバチの駆除 デーモクリトスの |
| 第5章 | 蜂蜜をいつ採取すべきか 同著者の | 第10章 | スズメバチに刺されないように パクサモスの |

第16巻

第16巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の16巻に含まれる。馬の世話と飼育に関する、およびロバとラクダに関する心得。

- | | | | |
|-----|-------------------------|-----|-------------|
| 第1章 | 馬について アブシュルトスの | 第4章 | 発熱について 同著者の |
| 第2章 | 馬の特徴 ペラゴニーオスの | 第5章 | 眼病について 同著者の |
| 第3章 | さまざまな病気の治療について アブシュルトスの | 第6章 | 目星について 同著者の |
| | | 第7章 | 腱について 同著者の |

- 第8章 腹について 同著者の
 第9章 疝痛について ヒエロクレースの
 第10章 肺病について 同著者の
 第11章 咳について 同著者の
 第12章 未知の病について テレムネーストスの
 第13章 排尿不全について アブシュルトスの
 第14章 もし小便に血が混じるならば 同著者の
 第15章 化膿について 同著者の

- 第16章 炎症について 同著者の
 第17章 関節の緩和 ペラゴニーオスの
 第18章 疥癬について 同著者の
 第19章 ヒルについて アブシュルトスの
 第20章 サソリあるいは他の爬虫類に刺されたらどのようにして治すか ビッポクラテースの
 第21章 交尾に適したロバについて アブシュルトスの
 第22章 ラクダについて ディデュモスの

第17巻

第17巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の17巻に含まれる。牛の交尾、および出産、および飼育、およびあらゆる種類の世話に関する心得。

- 第1章 牛について ブローレンティノスの
 第2章 若い雌牛、あるいはダマリスについて 同著者の
 第3章 雄牛について ディデュモスの
 第4章 牛を虚弱にしないように デーモクリトスの
 第5章 交尾について キュンティリオイの
 第6章 出産の予知について アプリカノスの
 第7章 アブ、いわゆるミュオーブスについて
 第8章 仔牛の飼育について ディデュモスの
 第9章 働いている牛が疲れないように デーモクリトスの
 第10章 何歳から牛を番わせ始めるか バローンの
 第11章 ハエによって牛が害を被らないように アプリカノスの
 第12章 肥えた牛を作ること ソーティオーンの
 第13章 治療について、また骨を飲み込まないように パクサモスの
 第14章 未知の苦痛について
 第15章 頭痛について
 第16章 下痢について
 第17章 消化不良について
 第18章 有毒な甲虫について
 第19章 差込みについて
 第20章 発熱について ディデュモスの
 第21章 咳について
 第22章 化膿について

- 第23章 びっこをひくことについて ブローレンティノスの
 第24章 疥癬について
 第25章 胆汁について

- 第26章 悪寒について
 第27章 蛆虫について
 第28章 食欲不振について
 第29章 シラミの病気について

第18巻

第18巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の18巻に含まれる。家畜の選別と検査、および交尾、および出産、およびあらゆる種類の飼育と世話に関する心得。

- 第1章 ^{フロバタ}家畜（羊）の選別、オスとメスの検査について ブローレンティノスの
 第2章 家畜の世話と存続について 同著者の
 第3章 交尾と出産について ディデュモスの
 第4章 家畜について、家畜が羊飼いに従うように アプリカノスの
 第5章 雄羊が飛び掛ってこないように 同著者の
 第6章 妊娠している家畜が生む仔がどんな色かを予知すること デーモクリトスの
 第7章 羊が病気にかからないように
 第8章 羊毛をいつどのように切り取るべきか ディデュモスの
 第9章 メスとオスの山羊について ブローレンティノスの
 第10章 山羊の乳がたくさん出るように 同著者の
 第11章 羊や山羊が疫病にかからないように キュンティリオイの
 第12章 乳について、また^{ボスケーア}家畜がたくさん乳を出すように アプリカノスの
 第13章 家畜の治療について レオンティオスの
 第14章 狼の狩猟 ディオパネースの
 第15章 疥癬について ディデュモスの
 第16章 シラミの病気について 同著者の
 第17章 さまざまな病気について アナトリオスの
 第18章 ^{アペリオン}山羊の群について ベーリュティオスの
 第19章 チーズの作り方について 同著者の
 第20章 乳の検査について 同著者の
 第21章 メルカの簡易な調理法 パクサモスの

第19巻

第19巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の19巻に含まれる。犬の飼育と世話に関する、および野ウサギとシカに関する、および肉の塩漬けに関する心得。

第1章 犬について パローンの	第6章 豚について ブローレンティノスの
第2章 犬について その他 ブロントーンの	第7章 豚の治療について ディデュモスの
第3章 犬の飼育について テオムネーストスの	第8章 野豚について デーモクリトスの
第4章 野うさぎについて デーモクリトスの	第9章 すべての肉の塩漬けについて ディデュモスの
第5章 鹿について クセノポーンの	

第20巻

第20巻の要旨

以下の内容がこの巻、つまり『農業に関する選集』の20巻に含まれる。魚の養殖、および様々な場所から一つの場所に魚を集めること、また漁獲、およびあらゆる種類の餌の配合、川や海のような魚の捕獲に効果があることについて。

第1章 魚の養殖について ブローレンティノスのための	第12章 川の小さな魚用の(餌)
第2章 一ヶ所に魚を集めること オッピアノスの	第13章 コイロイ用の
第3章 川魚を漁ること ディデュモスの	第14章 うなぎ用の
第4章 あらゆる種類の魚を一ヶ所に集めること デーモクリトスの	第15章 海のボラ用の餌
第5章 すべての魚について	第16章 成魚のボラ以外は何も釣らないための別の餌をうまく作ること
第6章 漁獲について タランティノスの	第17章 海のボラ用の餌
第7章 魚の餌	第18章 名称はブトッラトス、海での魚の餌、その餌で魚が一ヶ所に集まる
第8章 餌の配合	第19章 赤ボラおよび大きなスカロイ用の餌、水中において役立つように、餌の迅速さゆえに小魚がそこに近づかない。だが配合は自然に保たれる
第9章 巨大なコラキノイを釣るためだけの別の配合、最良の餌	
第10章 川の小さな魚用の餌、(オッピ)アノスがそれを用いていた	
第11章 餌、そこに魚が進んでやってくる	

第20章 海に生息するすべての巨大魚用の、例えばグラウコス、オルポス、およびこの種の魚	第32章 海のタイ用の
第21章 ウツボ用の	第33章 ダツ専用の
第22章 多足および甲イカ用の	第34章 マグロ専用の
第23章 うなぎや貝をこのようにしておびき寄せる	第35章 スマリス用の
第24章 すべての時期におけるすべての魚用の餌	第36章 海のアカエイ用の
第25章 葦で捕えられる小魚用の	第37章 同種用の 他のももの
第26章 通常の餌	第38章 サルポス用の
第27章 すべての小魚用の	第39章 グラウコス用の
第28章 釜 <small>うま</small> について	第40章 ぎざぎざした尾の、黒い尾の魚用の
第29章 釜について その他	第41章 ボラ、ケバロス用の
第30章 海のボラ用の	第42章 多足用の
第31章 カサゴ専用の	第43章 甲イカ専用の
	第44章 ザリガニ用の
	第45章 黒い尾の魚用の
	第46章 ソースの作り方

付記 本書翻訳の原本は昨年夏(2006年7月)附属図書館で発見された『ゲオーポニカ』(N. Niclas, Lipsiae, 1781)である。この書物の発見および解説については、鹿児島大学図書館報『南風』62号掲載の拙稿「附属図書館所蔵のGeoponika (Geoponica)」ならびに「東ローマ帝国の農業書『ゲオーポニカ』国内唯一の稀覯本を発見」という記事をご覧ください。この書物の重要性を鑑み、今回から数回にわたって本紀要に翻訳を掲載することに致します。最終的には全20巻を全訳する予定ですが、今回は本書の全体像を知ることが目的として、「贅辞」、各巻「要旨」および各巻各章の「章見出し」(621章)の全訳を掲載します。もとより、試訳であることは言うまでもなく、勘違いや誤訳も散見されることでしょう。しかしながら、最終的には注釈を含む完璧な訳に仕上げたいと存じます。また、同書中にあらわれる魚および動植物の名称についても、一応、訳を当てていますが、その同定が今後の課題になるものと思われます。